

【日 時】 令和4年10月24日(月) 午後2時～午後4時

【場 所】 多治見市役所駅北庁舎4階大ホール

【参加者】 最終頁名簿のとおり

【内 容】 1 教育長挨拶

2 委員委嘱

3 委員長及び副委員長の選任

4 新型コロナウイルス感染症の影響について

(委員) → (事務局)	コロナ禍以前と比べて、修学旅行や校外学習の行先等に変更しているか。 コロナ禍以前と比べると、行き先が変わった学校はあるが実施はできている。宿泊有りの校外学習を日帰りにした学校はある。
(委員) → (事務局)	コロナ禍での児童生徒の精神的ケアはどのように行っているか。 コロナ禍であることが子ども達の精神面にどのような影響を与えているかは不明であるが、子ども達の相談にはスクールカウンセラーやほほえみ相談員が対応している。
(委員) → (事務局)	コロナ禍による児童生徒の精神的な影響について調査しているか。 調査等で、コロナ禍であることを項目にはいれていない。
(委員)	先生の表情がマスクで分かりにくいため、特に低学年の児童の精神的ケアは重要である。また、コロナ禍で地域行事が実施できない状況である。地域行事は学校で味わえない体験をすることができる貴重な機会であるため、コロナ禍以前のように開催することができる日常がくることを願う。
(委員) → (事務局)	コロナ感染等で欠席した児童生徒の学習面のサポートはどのように行っているか。 欠席した児童生徒が自宅でタブレットを使用し、オンライン授業を行える環境を整備している。
(委員) → (事務局)	欠席した児童生徒はオンライン授業を受けているということか。 欠席者の体調等もあるため、全ての児童生徒がオンライン授業を受けているわけではないが、常に受けることができる環境にはしている。学級閉鎖の場合は、補習や授業内容を調整する等で対応している。

5 令和3年度末～4年度前期の主なできごと

(委員) → (事務局)	食育はどのような目的及び効果を期待して実施しているか。 食育については体を作る基本であり教育上必要であると考えている。食育センターでは施設見学や保護者等を対象とした食育講座、学校現場では栄養教諭等による食育に対する授業等を実施している。効果を図ることは難しいが、第3次教育基本計画の中で食育の目標を具体的に検討していく。
(委員)	食は生涯にわたる幸福につながるため、食育に力をいれ、食育の効果測定についても方法を考える必要がある。地産地消を進めること、成長期に必要な食事量を考えていくことも必要である。

(委員)	多治見市学習意識調査の結果をどのように分析しているか。
→ (事務局)	多治見市の児童生徒は素直でよく言うことを聞くが、これからの変化が激しいといわれる社会では自ら考える力が必要であると考えている。第3次教育基本計画では「挑戦すること」を重要視し、学び続けること、失敗しても挑戦することができる環境を整えていくことを計画していく予定である。
(委員)	第2次教育基本計画では「自立」「共生」「自己肯定感」をめざす子ども像に掲げているが、自ら考える力が必要であると分析しているということは主体性が育てていないということか。
→ (事務局)	これまでも努力はしてきている。タブレットを配備することで、主体的に学ぶことができる環境になっているため、ステップアップしていくことを考えている。
(委員)	ICT教育推進員は学校で具体的にどのような仕事をしているか。
→ (事務局)	退職された校長、教頭がICT教育推進員として各学校を巡回している。仕事としては、年度当初の設定作業や管理作業及び児童生徒への個別支援である。特に児童生徒への支援は業者への委託では難しいためICT教育推進員が重要な役割を担っている。また、職員への研修、特に他市から転任してきた職員への個別支援を行っている。ICT教育推進員は教育研究所及び学校と連携し、充実した活動を実施している。
(委員)	授業でのタブレット端末の利用率はどの程度であるか。
→ (事務局)	タブレット及び大型モニターを利用する授業は全クラスで実施している。全国学力・学習状況調査でのタブレット利用調査では、全国及び県より大幅に上回った利用率となっている。
(委員)	多治見市は小中一貫校を進めていく予定か。
→ (事務局)	中一ギャップを緩和していくため、小中一貫教育は推進していきたいと考えているが、解決すべき課題はあると認識している。令和8年度に開校する笠原小中学校を参考にしながら進めていく予定である。

6 第2次多治見市教育基本計画に係る事項について

○施策1 学力・体力を高める教育・保育の推進

(委員)	全国学力・学習状況調査で全国平均値を上回った学校数の推移の調査目的は何か。
→ (事務局)	全国平均値より上回っているかどうかを一つの指標とし、各校長は分析して結果を授業改善に活かしている。
(委員)	キャリアアップ研修は対面で実施しているか。
→ (事務局)	対話することを大事に考えているため対面での研修をしている。研修内容は、実際困っていることを題材として行っている。
→ (委員)	研修をWebで開催すると多くの教員が受講できるのではないか。

→ (事務局)	キャリアアップ研修は、多くの教員を対象としているのではなく、学校現場で中核を担うと思われる教員を学校から推薦してもらい実施している。
(委員)	体力については調査結果があるか。
→ (事務局)	スポーツ庁の調査結果がまとまってから報告する。
(委員)	標準学力調査の推移（小学校）は分析すると長期的な傾向がわかる。中学校も長期的な分析はできるか。
→ (事務局)	標準学力調査は継続して実施しているため、現在の中学校3年生が小学校の6年生の時と比較することは可能である。
→ (委員)	小学校高学年においての学力をみるだけではなく、長期的にみて学力を伸ばしていくという分析はよいと思う。
(委員)	子ども達に学んだことを実感できる経験をしてほしい。教員が実感できる学びを支えてほしい。
(委員)	今回は数値の評価が示されているが、今後質的評価が加わるとよい。数値の結果を質的理由で説明をすることも重要である。

○施策2 主体性・社会性を育む教育の推進

(委員)	多治見市学習意識調査の結果、主体性を養う必要があると説明があったが、自立・共生・自己肯定感に関する調査の結果は約80%肯定的な結果となっている。どのように解釈したらよいか。
→ (事務局)	自立・共生・自己肯定感に関する調査は、「よく当てはまる」、「当てはまる」の合計が約80%となっており、「当てはまる」の捉え方にもよるものであると考える。多治見市学習意識調査の結果より、主体性を養うことは必要であると認識している。
→ (委員)	2つの調査結果が異なっていたため、実態にあわせて結果を出した方がよい。
(委員)	共生に関する回答で、中学生の回答は学年が上がるとともに肯定的な回答となっているが自己肯定感は低い結果となっている。他者の違う意見は認めることができるが自分を認めるという自己肯定感は低いことに疑問を感じている。

○施策3 家庭や地域と連携した教育の推進

意見なし

○施策4 健やかな学びを支える教育環境の充実

(委員) → (事務局)	GIGA スクール構想で配備されたタブレットの更新計画はどのような予定となっているか。 令和4年度及び5年度で校務システムのシンクライアントを更新、令和7年度から令和9年度でタブレットの更新を予定している。更新のための補助金がないため、全国の市長会等で要望していく。大型ディスプレイの更新については令和11年度から令和13年度に予定している。
(委員) (委員) → (委員)	教職員の働き方改革を引き続き進めてほしい。男性教員の育児休暇も是非進め、子ども達を育てる人が自分の子どもに関われる時間をもてるような職場環境にしてほしい。 男性教職員の育児休暇取得は難しいと思うが、育児は一時的な期間のことであり、取得者が管理職になった時、職場環境も変わると思う。 男性教職員の育児休暇取得者数を数値としてあげることは控えたいが重要な課題としてほしい。
(委員)	ICT の環境整備は大変充実しており評価できる。また、教職員の残業時間はコロナ禍以前の令和元年度より大幅に削減されているのも高く評価できる。一方、まだ教職員の残業時間は多く、中学校で小学校より下げ止まっている傾向があるため更なる対策をお願いしたい。

○施策5 一人ひとりの自立を支援する教育の推進

(委員) → (事務局)	発達相談は支援児をもつ親には大きな支えとなる。是非、相談できる機会を増やしてほしい。一般の事業所も活用する等、相談できる場所を活用し親の負担を減らしてほしい。 中学校の通級指導教室について詳しく教えてほしい。 北陵中学校を拠点として、南姫中、南ヶ丘中、陶都中、小泉中を巡回している。自立支援を目的としており、将来に必要な力を養うため個別支援計画をもとに行っている。例えば、20歳時、30歳時のライフステージをイメージして言語化し、現段階で養う力を対面式で育てている。
---------------------	---

○施策6 多様な課題に寄り添う広義のインクルーシブ教育の推進

(委員) → (委員)	たじっこクラブは障がい等の支援が必要な児童を受け入れているか。 支援が必要な児童の多くは放課後等デイサービスに行き、たじっこクラブ入所者は少数である。入所した場合は、障がい児加算がつき、支援員の加配が可能となる。
(委員)	日本語指導が必要な児童生徒数が増加していることは大きな課題と捉えている。他市の支援方法を参考にして取り組んでほしい。

7 意見交換

なし

8 その他

第2回教育行政評価委員会は後日調整

● 多治見市教育行政評価委員会 委員等名簿（敬称略）

委員

名前	所属・役職	その他
石井 拓児	名古屋大学教育学部教授	委員長
安田 悦子	元笠原小学校校長	副委員長
三和 義幸	多治見西高校職員	